

モクズガニの種苗生産を始めます

モクズガニはイワガニ科に属するカニで、北海道から沖縄まで日本のほぼ全域とロシアのウラジオストックから香港、台湾にかけ広域的に生息している。

甲幅7-8cm、体重180gにまで成長し、河川のカニとしては大型で、ハサミの部分に濃い毛が生えるのが大きな特徴である。

モクズガニは海域で生まれ、浅海域で幼生期を過ごした後に汽水域で変態し稚ガニとなる。その後、川を上って淡水域で脱皮を繰り返して成長し、成熟すると川を下り汽水域や海域で交尾・産卵を行い、ほとんどの個体はそこで一生を終える。岡山県内では秋から冬にかけて産卵のために河川を下ってくるカニを狙って漁が行われている。モクズガニは、中華料理の高級食材として知られる上海ガニに近い仲間で、上海ガニと同様に濃厚なカニミソと内子（卵巣）が美味とされている。

水産研究所では平成26年度より種苗生産を計画しており、3mmほどの稚ガニを生産する。種苗生産は4月から6月にかけて行う予定であり、現在は未抱卵のカニを飼育して産卵させる試験や、カニカゴを使って抱卵した親ガニの採取を試みているところである。

放流して数年後には、稚ガニは成長・成熟して漁獲される。このカニが皆様の食卓に上るように努力したい。（資源増殖室 竹本）



写真1 モクズガニ



写真2 カニカゴでの採取の様子



写真3 飼育中のモクズガニ